

「CAN-DO リスト」の作成とその活用

～学習到達目標を明確にした英語の授業～

三重県教育委員会事務局 研修推進課 教科等研修班 研修員 渡邊 佳苗

I 研究の目的

3年間の英語学習の到達目標を、「英語で～ができる」という「CAN-DO リスト」の形で設定し、それを活用した授業を行う。そして、その成果と課題について考察し、今後の自らの実践につなげる。また、作成した「CAN-DO リスト」は、他の学校でも活用可能なものにしていく。

II 研究の内容

1 「CAN-DO リスト」の概要

「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」（平成23年6月 文部科学省）で「CAN-DO リスト」の作成について提言がなされた。「CAN-DO リスト」とは、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から生徒が身に付ける英語能力を段階的に明示した学習到達目標である。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を用いて、「～することができる」という文章で設定する。「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標は、コミュニケーションのための英語活用能力の到達目標であるため、文法理解についての記述はしない。

- 例) × 未来を表す **be going to** を理解している。
- 週末の予定を簡単に伝えることができる。

「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」（平成25年3月 文部科学省）（以下、「手引き」）には、その目的として、以下の3つが挙げられている。

- 生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、指導と評価の改善に活用する。
- 4技能を総合的に育成し、自ら考えを伝える能力、思考力・判断力・表現力を養う。
- 教員と生徒が目標を共有し、主体的に学習する態度・姿勢を生徒が身に付ける。

2 「CAN-DO リスト」の作成

「手引き」、他県の「CAN-DO リスト」や作成ガイドを参考にして、NEW CROWN ENGLISH SERIES（平成24年度版）の教科書をもとに作成した。作成の手順は表1のとおりである。

「表1『CAN-DO リスト』の作成手順

1	各単元の目標を一つの技能に絞って設定する 各単元の目標の中で、「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」に関連した目標で、その単元で重点的に扱う目標をピックアップする。単元の言語材料や題材から、4技能(Speaking, Writing, Listening, Reading)のうち、どの技能を中心に指導するかを考え、単元の目標を一つの技能に絞って設定する。
2	各単元の評価規準、評価方法を計画し設定する 1で作成した単元の目標を技能別に分ける。そして、3年間を見通して、評価規準、評価方法を考え設定する。
3	単元の評価規準から学年の学習到達目標を設定する 2で作成した単元の評価規準を、技能別に第1学年から第3学年まで合わせて一覧にする。単元の評価規準をもとに、学年の学習到達目標を考え設定する。
4	技能別に学習到達目標をまとめ一覧にする 3で作成した学習到達目標を、技能別に3年間まとめて一覧にする。

3 「CAN-DO リスト」を活用した授業実践

(1) 「CAN-DO リスト」を活用した単元計画の作成

作成した「CAN-DO リスト」をもとに、単元計画を作成した。作成にあたり、次の点に注意した。①単元の目標が「CAN-DO リスト」の中のどの力を付けるものなのかを示す。②毎時間の授業が、単元の目標に向かうよう計画する。そして、単元ごとに、「CAN-DO Check リスト」を作成し、その単元でできるようになってほしいことを「CAN-DO リスト」よりも具体的に示した。単元の始めに生徒に配布し、授業後や単元終了時に確認できるようにした。

(2) 協力校での授業実践

単元：Lesson6「My Family in the UK.」(NEW CROWN ENGLISH SERIES 1)

時期：第1時～第5時…10月26日(月)～11月13日(金)

第9時…12月3日(木)、4日(金)

協力校で第1学年(153名)を対象に、6時間分の授業実践を行った。「CAN-DO リスト」の中の、「基本的な語や表現を用いて、あいさつや簡単な自己紹介、人の紹介をすることができる。」(Speaking)、「基本的な文の決まりに従って、自分や身近な人や物を紹介する文章を書くことができる。」(Writing)の達成を目指し、「人を紹介するスピーチをする」ことを単元のゴールに設定した。

「CAN-DO リスト」を活用した授業について、実践とアンケート結果から、効果と課題について以下のように考察する。

ア 「CAN-DO リスト」を活用した授業の効果

① 生徒にとって目標が明確になり、見通しを持って授業にのぞむことができる。

「CAN-DO Check リスト」を作成し、単元の初めに配布したため、生徒はどんなことを学び、どんな活動をして、何ができることが目標かが具体的に分かる。多くの生徒が単元の目標を意識し、見通しを持って授業にのぞむことができていた。

② 学んだ知識を活用し、「英語で～できた!」を実感できる。

生徒は、「人を紹介するスピーチをする」ために、三人称単数現在形のルールに気をつけたり、単語や表現について辞書を使って調べたり、教師や友達に聞いたりしながら、自分の力で文章を考え表現することができていた。生徒は学んだ知識や表現を活用し、「英語で人の紹介をすることができた!」ということを実感することができた。

③ 生徒の学習意欲を高めることができる。

「CAN-DO Check リスト」で目標が明確に示されることにより、生徒は「～できるようになりたい」という自覚が芽生える。また、Reflection Sheet で振り返る中で、できたところについては、「もっと、こうしたい」できなかったところは、「次はできるようになりたい」というように、次に向けて「こうしたい」という意欲を持つことができた。

イ 授業実践から見えてきた課題

今回の授業実践では、年度途中で「CAN-DO リスト」を示し説明しているが、時間の関係で十分に説明することができなかった。「CAN-DO リスト」がどのようなもので、何を目標にするのかということ、詳しく生徒に伝えて進めていくことが大切である。また、全ての授業で単元のゴールを意識した授業ができたわけではない。新出文法定着のための練習と単元のゴールに向けての活動とを上手く織り交ぜながら、単元内の各時間の指導が系統性のあるものになるよう単元計画を考えていくことが大切である。

III 成果と課題

1 成果

「CAN-DO リスト」を作成することにより、生徒にどんな力を付けさせたいかを明確化することができた。また、「CAN-DO リスト」をもとに1年生の授業の単元計画を作成し、指導と評価の一体化を図ることができた。「CAN-DO リスト」を活用した授業実践を行い、目標の明確化や達成感により、生徒の学習意欲を高められることが分かった。「CAN-DO リスト」があることにより、教師間で、指導にあたっての共通理解を図ることができた。教師間で同じ目標を持ち、それに向けて授業を計画し実践することで、教師側の授業に対する意識の変化が生まれ、授業改善につなげることができた。

2 課題

年間をとおして「CAN-DO リスト」を活用した授業を実践し、達成状況の把握、学習到達目標の見直しということを繰り返し行っていくことで、より生徒の実態に即した英語の授業が可能になると考える。「CAN-DO リスト」の作成は、校内の英語科教員全員で意見交換・協議し、共通理解を図りながら作成することで、より良い学習到達目標の設定ができると思う。しかし、日々の様々な業務を行う中で、英語科教員全員が関わって「CAN-DO リスト」を作成するには負担が大きいと感じた。同じ教科書を扱っている地区などで、ひな形を作って共有したり、平成28年度版の教科書には、「CAN-DO リスト」を載せているものもあるので、それを活用していくことも一つの方法として考えられる。

平成27年度 「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標

学年	レベル	Listening	Speaking	Reading	Writing	
		6	<p>自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に分かりやすく伝え、必要に応じて聞き返したり、相手ちをうったりしながら会話を続けることができる。</p> <p>Lesson 2 (好きな人物についてのインタビュー) Lesson 3 (学校の先生紹介) Lesson 6 (尊敬する人物を紹介するスピーチ) We're Talking 1～8</p>	<p>手がかりと丁寧な語句(注釈など)をもとに、様々な文章(物語文や説明文等)を読んで、その概要や要点を理解するとともに、それに対して感想を述べたり、理由を示したりできるよう、自分の考えを持って読むことができる。</p> <p>Let's Read 1 (説明文) Let's Read 2 (体験手記)</p>	<p>身近なテーマについて、自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>Lesson 1 (好きな言葉についてのスピーチ原稿) Lesson 8 (未来の自分への手紙)</p>	
		3	<p>ゆつくり、はっきりと語されれば、まとまりのある少し長めの英文(会話やプレゼン等)を聞いて、全体の概要や内容の要点を正確に聞き取ることができる。</p> <p>Lesson 2 (ラジオ番組のインタビュー) Lesson 4 (ニュース)</p>	<p>写真や絵などの視覚的補助を利用し、与えられたテーマについて、自分の意見や主張、その理由を述べたスピーチをすることができる。</p> <p>Lesson 6 (尊敬する人物を紹介するスピーチ)</p>	<p>まとまりのある英文(説明文等)を読んで、あらすじや大切な部分などを正確に読み取り、自分の言葉で内容について簡単に説明することができる。</p> <p>Lesson 4 (物語文) Lesson 7 (新聞のコラム)</p>	<p>身近な人や写真、事物の説明などを、文のつながりや文章の構成などを意識して、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>Lesson 3 (学校の先生紹介) Lesson 5 (日本紹介)</p>
	2	4	<p>繰り返しや言い換えを交えて、ゆつくりはつきりと語されれば、身近な話題に関するまとまりのある英文を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。</p> <p>Lesson 3 (ニュースや天気予報) Lesson 6 (空飛ぶでの会話)</p>	<p>前もって発話することを用意した上で、身近なトピックについて、教科書のモデル文や既習の表現を活用して、自分の考えや気持ち、事実などを話すことができる。</p> <p>Lesson 5 (将来の夢のスピーチ) Lesson 7 (プレゼンテーション)</p>	<p>まとまりのある英文(説明文等)を読んで、その概要や書き手の意向を読み取り、要点を把握することができる。</p> <p>Lesson 4 (オクトップスの説明文) Lesson 6 (新聞のコラム) Let's Read 2 (自伝)</p>	<p>自分の興味のある事柄についての基本的な情報を、辞書等を用いて、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>Lesson 8 (自分の行きたい国を紹介)</p>
		3	<p>繰り返しや言い換えを交えて、ゆつくりはつきりと語されれば、過去の出来事や未来の予定などについて語された英文を聞いて、情報を適切に聞き取ることがができる。</p> <p>Lesson 3 (休日の予定についてのインタビュー) We're Talking 1～8</p>	<p>身近な暮らしにかかわる事柄について、聞き手に正しく伝えたり、聞き手からの質問に適切に応じたりすることができる。</p> <p>Lesson 3 (休日の予定についてのインタビュー) We're Talking 1～8</p>	<p>英文の内容を考えながら黙読したり、内容が伝わるように音読することができる。</p> <p>Let's Read 1 (どんち語)</p>	<p>簡単な語や基礎的な表現を用いて、自らの体験や経験について、書くことができる。</p> <p>Lesson 1 (春休み、冬休みなどの思い出) Lesson 2 (過去と現在の自分について)</p>
		2	<p>本人に向かって、ゆつくりはつきりと語されれば、自己紹介や身近な話題についての短い英文を聞いて、話し手の伝えたいことを理解することができる。</p> <p>Lesson 2 (身近な人や物について) Lesson 4 (いくつ? 数字) Lesson 5 (だれ? どこ? いつ?) Lesson 9 (過去の出来事や昔話)</p>	<p>基本的な語や表現を用いて、自分のことや身の回りの物など、身近な話題について簡単な会話をすることができる。</p> <p>Lesson 5 (だれ? どこ? いつ?) Lesson 9 (過去の出来事や昔話) We're Talking 1～9</p>	<p>図や写真などを手がかりに、身近な話題についての短い文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。</p> <p>Start Reading 1 (自己紹介) Let's Read 1 (文学作品のあらすじ) Lesson 7 (レポート) Let's Read 2 (物語)</p>	<p>基本的な文の決まりに従って、自分や身近な人や物を紹介することができる。</p> <p>Lesson 2 (身近な人や物について) Lesson 3 (自己紹介) Lesson 6 (友達や家族など、人の紹介) Lesson 8 (絵や写真の説明)</p>
1	<p>本人に向かって、ゆつくりはつきりと語されれば、簡単な英語を聞いて、具体的な行動に移すことができる。</p> <p>Simon Says classroom English</p>	<p>基本的な語や表現を用いて、あいさつや簡単な自己紹介、人の紹介をすることができる。</p> <p>Lesson 1 (自己紹介や気持ちや状態) Lesson 3 (自己紹介) Lesson 6 (友達や家族など、人の紹介)</p>	<p>アルファベットや身近な暮らしに関わる単語について、正しい発音で読むことができる。</p> <p>Get Ready 4 (フォニクス)</p>	<p>アルファベットの大字・小文字、単語のつづきをソフトウェアで書くことができる。</p> <p>Get Ready 3 (アルファベットを覚えよう) Lesson 1 (自己紹介や気持ちや状態)</p>		
※NEW CROWN(平成24年度版)に対処						